

調査報告概要表

作成日 2007年6月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4670200577
法人名	有限会社 あおい介護福祉会
事業所名	グループホーム「あおいの家」
所在地 (電話番号)	薩摩川内市隈之城町1248 (電話)0996-20-3221
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成19年6月13日

【情報提供票より】(平成 19 年 5 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 5 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	5.8 人

(2)建物概要

建物形態	単独		
建物構造	木造モルタル造り		
	1階建ての	1階	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(平成 19 年 5 月 1 日現在)

利用者人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79.5 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人興隆会有村医院 ・ぎんや歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

国道近くに位置し、周囲には小学校や住宅地がある田園地帯で、とても静かな佇まいである。設立者らの、「地域のために何か役立つものを築きたい」という信念のもと、管理者・職員が一丸となって家庭的なホームづくりに取り組んでいる。日常生活では、小学生と公園散歩や登下校を通じて交流し、近隣医療機関とも定期的な訪問診療や通院により連携を図っている。玄関をはじめ共用スペースは広くゆったりとしており、清潔感が漂っている。利用者はそれぞれの時間を居心地よく過ごし、くつろいだ表情がみられる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホームの理念に関しては、パンフレットに明示しており改善している。その他の改善課題の中で、栄養摂取や入浴、研修に関しては取り組んでおり、今後も継続して取り組む予定である。広報活動や緊急時のマニュアルについては、検討はしているが改善まではいたっていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は運営者・管理者だけで行うのではなく、職員とも話し合いを行い、ともに取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の代表者・利用者家族等に対して状況報告をするとともに、行事に関することや日常生活活動についての意見をだしてもらい、地域の協力体制の強化を図っている。現在は4ヶ月おきの会議であるため、今後は2ヶ月に一度の開催とする予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来所時等に時間をとって聞き取りをし、相談苦情を言いやすい関係作りに努めている。現在は特に苦情は聞かないが、今後は相談事でも内容を記録しておく予定である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域自治会に加入しており、清掃活動などに参加している。近所の方に野菜を頂くなどの交流を図っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームとしてのケア理念はあるが、地域密着型としての検討はしていない。	○	今後の取り組みとして、地域密着型サービスの役割を理解し、果たすべき役割を反映した理念づくりを検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勤務引継ぎ時に唱和して、理念の共有・実現を図っている。職員は、利用者が安心した生活を送れるように、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	会社組織として自治会に加入しており、河川掃除などの地域行事への参加をしている。近所の方に野菜を頂いたり、地域の方が友人を連れてきてくれたりと交流の輪も広がってきている。また、近くの小学校の子供たちとは、公園遊びや登下校の際に日常のふれあいを持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は、評価の意義を理解しており、ともに自己評価に携わっている。前回の外部評価の結果については、ミーティングで話し合いをし、取り組みをしている項目もあるがまだ取り組んでいない内容もある。	○	前回及び今回の外部評価の結果を踏まえ、改善計画を作成し、積極的に取り組むことが期待される。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は4ヶ月に1度開催しており、地域の方や利用者の家族代表の方の出席がある。	○	現在、行政の担当職員の参加がないため、専門的見地からの意見を得るためにも、行政関係者へ積極的に働きかけることを期待したい。また、2ヶ月に1度は運営推進会議を開催することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターやそれぞれの担当課へ個別の相談をしており、資料を頂いたり指導を仰いだりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月末に出納帳のコピーと個別の日誌を送付している。また、遠方の家族へは手紙をファックスしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来訪の折に話をすることで、苦情を未然に防ぐ努力をしており、意見箱にも意見や苦情は入っていない。	○	実際には、電話や訪問時の相談もあることから、それらを記録し対応が適切だったか振り返り手立てとしてもらいたい。また、今後は様々な方法で家族の意見要望を吸い取る仕組みも検討されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	数年間離職者もなく、利用者にとって馴染みの職員により継続的なケアを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「認知症の介護を考える会」を地域の有志で立ち上げ、その中で研修会を開催し職員が参加、毎月のホーム内勉強会の際に伝達講習を行っている。その他の外部研修へは、管理者中心の参加となっている。	○	年間を通しての段階的研修計画を検討するとともに、ケアの継続性や質の向上の観点から、研修記録(参加者・日付・内容等)を残すことが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催のサービス担当者会議においては、地域のグループホームの管理者同士の交流を行っているが、職員間の交流にまではいたっていない。	○	地域の同業者との交流や相互研修を行うことで、職場外の意見を聞くことができ、サービスの質の向上へとつながるため、今後は積極的な取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用開始前に、本人や家族等と見学をしてもらい、お互いに相談しながらのサービス開始となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の生活歴を把握しながらともに活動し、料理や野菜作り等では、日常生活の中で利用者に指導してもらっていることが多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中で、利用者の希望や意向を引き出すように努めている。また、意思疎通が困難な方には、家族等からも情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人や家族の意見をもとに、ミーティング時に職員と話し合いながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しとケアの成果を記録しており、職員間でも話し合いを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者に対し、必要時は通院支援などの柔軟な対応を行っている。今後は認知症デイサービスの構想もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望のかかりつけ医と連携を図り、各科の協力医療機関からも定期的あるいは緊急時にも診療協力をもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとして、重度化や終末期についてのサービス提供はしていないが、状態変化時には家族と個別に話し合いをしている。	○	利用者の介護度が高くなりつつあり、重度化に伴う本人や家族の不安も大きくなることから、出来るだけ早期に対応方針の共有を図ることが望まれる。また、終末期へのサービス提供の有無について、重要事項説明書等へ記載することを検討されたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いは適切であり、職員は利用者に対して、尊厳に配慮したケアが出来るように心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、利用者の希望に副った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の一部準備や下膳・台拭き等、できることを利用者みずから行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯や回数等は、検討の末に現在の午前入浴となっており、利用者・家族からも特に不満は出ていない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の様々な場面で役割ごとがあり、一人ひとりの出番がある。ドライブや家族のお見舞い等により、楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者により外出頻度は異なるが、それぞれに庭や公園を散歩し、ドライブを楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない自由な暮らしの支援を行っており、外出したい様子が見られる利用者には、一緒に散歩をしまわるなどの対応を心がけて安全面にも配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1～2回の防災訓練は実施しているが、夜間を想定した訓練はまだ行っていない。災害時の支援については、近隣住民へ声かけをしている。	○	地域自治会の防災部門に協力を依頼していくということであるが、今後は地域ネットワークの中で災害対策を推進してもらいたい。また、飲料水等の緊急用の備蓄も検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好を把握しながら、摂取カロリーを勘案し献立を立てている。個別の摂取記録の記入も整理している。	○	摂取カロリーだけでなく、栄養バランスの観点からも、定期的に地域の栄養士や保健師に専門的アドバイスをもらい、高齢者の食事を支援することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の装飾等があり、玄関から居間にいたるまで家庭的でくつろげる空間となっている。利用者も心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	装飾品のほか、ベッドや位牌など自由に持ち込んでおり、それぞれの大切な物に囲まれて居心地良く暮らし、職員はプライバシーを大切にした支援を行っている。		